



都市医師会 だより

第2回医療町民フォーラム を振り返って

寿都医師会
黒松内町国民健康保険病院

秀毛 寛己

昨年11月8日（土）第2回医療町民フォーラムが黒松内町民センターにて行われた。主催は、黒松内の医療を考える会（代表：茂尾公晴レインボー歯科クリニック院長）、後援は黒松内町。

当日は、あられの降る寒い午後であったが、約120名の参加があった（約半数が前回も参加している）。前回4月19日に続いて、北海道厚生局 清水美智夫局長と漆原正芳医療安全対策専門官、倶知安厚生病院 高橋雅俊院長、北大院医療システム学 前沢政次教授そして北海道医師会から今回は藤原秀俊常任理事のご臨席のもとに行われた。

全体は、体操休憩リラックスタイムを除いて4部構成。第1・2部で前回のおさらいとアンケート結果の報告。第3部で特別講演として、道南勤医協江差診療所大城 忠所長に地域医療の取り組みをご自身の人柄そのものに語っていただいた。第4部は、先のゲストの代表4名の先生方と大城先生と谷口 徹黒松内町長にそれぞれコメントをいただく形式で進行した。まとめりよく約2時間で終了した。今回も感じたことだが、もう少し討論や質問などなんでもよいからフロアからの発言がほしい。聴衆がおとなしいと思う。今回はゲストの先生方に発言をしていただき、短くはあったが示唆に富むお考えをわかりやすく話していただき聴衆に感銘を与えたようだ。実は、第5部と称すべきかは別としてフォーラム終了後に近くのレストランで情報交換会を催し、その時の非公式の意見交換が自分としてはもっとも勉強になり非常に楽しかった。

今後の方向性としては、実行委員会を充実させ町

民主体で考えを出し合っしてほしいと思う。トークショーやパネルディスカッション、レクチャーに加えて、ディベートかブレインストーミング的な場があってもよい。その時に黒松内町国保病院の医師として初めて意見を言えると思う。医療崩壊、医療機関の存続等について黒松内町町民の意識はまだまだ危機感というには程遠く及んでいない感がある。別の町政アンケートなどでは具体的な心情的苦情が無記名で出る程度で、病院に関しては、個人的域を出ず、他力本願で自己中心的意見が大多数である。町全体の医療という見方ができる町民が一人でも多くなってほしい。そういう意味でもこのフォーラムの継続意義はありそうだと思う。今回は、会場設営も改善され、座席でアンケートが記入しやすく、また音響もスピーカー位置を変えたため聞きやすく好評だった。次回のよりよい進展に期待する。天候が悪く厳しい気象条件、さらに次日の医師会厚労省出向説明や医師会記念行事、当日厚生連セミナー、当日東京出張予定などを控え多忙な中、それぞれ時間を割いて黒松内へ札幌からわざわざ今回もお出でいただいた5名の先生方と旧交を温めることができ、特別講演を引き受けていただいた講師大城先生に深くこの場を借りて感謝いたします。



北海道厚生局清水局長



会場風景